

茶病害虫防除情報

令和5年2月13日

【第6号】

鹿児島県経済連・肥料農薬課

主要病害虫の生態と防除シリーズ (4)

チャノコカクモンハマキ チャハマキ

発生と防除のポイント

古くから茶葉を食害する重要害虫である。最近被害はやや少なくなっている。幼虫で越冬し、年4～5回発生する。本県ではチャノカクモンハマキが多かったが、最近ではチャハマキが多くなっている。葉を綴って中で食害するが、チャノカクモンハマキは広範囲に主に新成葉を、チャハマキは坪状に成古葉を食害する。

薬剤防除は齢が進み、巻葉してからの効果は劣るので、2齢位までの若齢幼虫期に行う。ハマキ天敵（顆粒病ウイルス）、性フェロモンによる交信攪乱防除法など生物的防除も効果的で、普及している。

チャノコカクモンハマキ

発生生態

害虫の種類	昆虫・鱗翅目
発生の状況	普遍的に発生 被害中
形態と診断	寄生・加害特徴：新・成葉を綴り合わせて加害 ほぼ園全面に発生 成虫：暗褐色角紋のある7～10mmの蛾 幼虫：体長約20mm・緑色 頭部黄褐色 蛹：約8mm褐色 卵 ：約0.8mm 40～50個の卵塊 黄色で孵化直前には黒点を生ず （類似種にウスコカクモンハマキが分布している）
被害の様子	最初新葉を縦にとじ、葉を上下に綴り、表皮を残して食害する。 多発すると、殆どの葉を綴り食害する。被害は殆ど摘採後に生ずる。 被害園では翌茶期の収量への影響が大きく、新芽への加害では品質が低下する。
生態・生活史	越冬：巻葉中で幼虫(3月頃蛹化 4月頃羽化 4月下旬発蛾最盛期) 発生回数：年4～5回 産卵：3～4卵塊 1卵塊130～200粒を葉裏に産下 加害：幼虫は分散し、新葉を好み食害 発育期間：卵・5～15日 幼虫・18～28日 蛹・5～10日 成虫5～10日
発生消長	越冬世代成虫が3～4月に発生し、10月頃まで5回発生 第1世代幼虫：5月中・下旬 成虫：6月上・中旬 第2世代幼虫：6月下～7月上旬 成虫：7月中・下旬 第3世代幼虫：8月上・中旬 成虫：8月下～9月上旬 第4世代幼虫：9月中～10月上旬 成虫：10月中・下旬 第5世代(越冬)幼虫：11月～3月 成虫：4月上～下旬

発生条件 気象条件の影響は比較的少ないが、高温・少雨で発生しやすい。
越冬期の気象では、寒暖差が大きいと越冬密度が低下する。
天敵寄生蜂などに影響の大きい薬剤の使用は発生を助長する。

天敵 影響大 ハマキサムライコマユバチ ハマキコウライコマユバチ ハマキオスグロアカコマユバチ 顆粒病ウイルス

チャハマキ (オハマキ)

発生生態

害虫の種類 昆虫・鱗翅目

発生の状況 普遍的に発生 被害中

形態と診断 寄生・加害特徴：成葉・古葉を綴り合わせて加害 集団的に発生
成虫：10～15mm・褐色うすい濃褐色の紋あり(コカクモンハマキより大型)
幼虫：約25mm・灰緑色で頭部は黒褐色
蛹：10～13mm・褐色(巻葉内)
卵：約1.2mm 約130～150個の卵塊で葉表に産下
黄色で孵化直前に黒点を生ず(眼点期)

被害の様子 坪枯れ状に集中発生する。葉を綴り合わせ内側から食害し、多発すると新葉・古葉とも葉を食いつくす。
成葉・古葉が食害され、次茶期芽の発芽・生育に影響を受け、減収する。

生態・生活史 越冬：巻葉内で幼虫(3月頃蛹化 4月頃羽化 5月上旬発蛾最盛期)
発生回数：年4～5回
産卵：3～5卵塊(1卵塊・・・約150粒)400～750粒を葉表に産下
加害：幼虫はあまり分散しない 成葉・古葉を好み加害
生育期間：卵7～13日 幼虫28～32日 蛹7～10日 成虫5～10日

発生消長 越冬世代成虫が3月下旬～5月上旬に発生し、10月頃まで5回発生
第1世代幼虫：5月中・下旬 成虫：6月上・中旬
第2世代幼虫：6月下～7月上旬 成虫：7月下～8月上旬
第3世代幼虫：8月中・下旬 成虫：9月上・中旬
第4世代幼虫：9月中～10月上旬 成虫：10月中・下旬
第5世代(越冬)幼虫：11月～3月 成虫：翌年3月下～5月上旬
(チャノカクモンハマキに比較しやや遅れ、発生期間の幅が広い)

発生条件 チャノカクモンハマキと同じ。
夏、雨が少ないと多発する傾向がある。

天敵 影響大 キロタマゴバチ チャハマキスヒメバチ 顆粒病ウイルス エントモトウ菌など

防除方法・・・チャノコカクモンハマキ チャハマキ 共通

- 防除のポイント
- ① 発蛾最盛期7～10日後、ふ化間もない若齢幼虫期に薬剤防除する。
 - ② 摘採、整・せん枝により密度低下を図ることが可能である。
 - ③ 性フェロモン剤による交信攪乱防除法も有効である。広面積で実施する。
 - ④ ハマキ天敵(顆粒病ウイルス)を使用した生物的防除は広面積で実施する。
 - ⑤ 二・三番茶期(第1・2世代)、秋芽生育期(3・4世代)の加害被害は大きいので防除に留意する。

具体的防除方法

生物的防除法 (JAS 有機栽培適用)

防除時期	生物的農薬名	使用量・希釈倍数	備考 注意事項
越冬世代 成虫発生期	【性フェロモン剤】 ハマキコン N	ディスプレイ 150～250 本 ロープ製剤 30～50m	・成虫発生初期に設置する。 ・樹冠面下 10cm の枝につける。 ・茶園周囲に張り渡す。 ・50 a 以上広面積で使用する。
一・二番茶摘採後 (発蛾最盛期 10～ 15 日後) (若齢幼虫期)	【顆粒病ウイルス】 ハマキ天敵 【BT 剤】 エスマルク DF サブリンフロアブル ゼンターリ顆粒水和剤 チューンアップ 顆粒水和剤 デルフィン顆粒水和剤 レビクリーン DF	1000～2000 倍 1000 倍 1000 倍 1000 倍 2000 倍 1000～2000 倍 500～1000 倍	・ふ化～2 齢期巻葉前に散布する。 ・展着剤を加用する。(有機不可) ・巻葉前の若齢幼虫期に散布する。 ・防除効果はやや緩慢で、劣る。

薬剤防除法

防除時期	農薬名	希釈倍数	備考 注意事項
一・二番茶摘採後 秋期 9 月上中旬 10 月下～11 月上旬 (発蛾最盛期 10～15 日後) (若齢幼虫期)	【IGR 剤】 ファルコンフロアブル マトリックフロアブル ロムタンフロアブル 【ジアミド系剤】 エクシレル SE サムコルフロアブル テップン液剤 ヨーバルフロアブル	4000～8000 倍 1000～2000 倍 1000 倍 2000 倍 2000 倍 1000 倍 2500～5000 倍	・性フェロモントラップ を利用し、発蛾最盛期を把握し、適期防除する。 ・薬剤抵抗性を考慮し、同一系統の薬剤使用は年 1 回とする。 ・更新園は若葉が多く加害を受けやすいので留意する。 ・IGR 剤、ジアミド系剤は発蛾最盛期からその 1 週間後までに散布する。

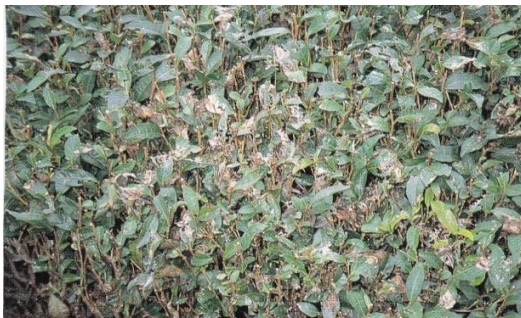
	<p>【その他の剤】</p> <p>アグリメック</p> <p>アフーム乳剤</p> <p>アフームエクセラ顆粒水和剤</p> <p>スピノエースフロアブル</p> <p>ディナ SC</p> <p>グレイシア乳剤</p>	<p>1000 倍</p> <p>1000～2000 倍</p> <p>1000 倍</p> <p>2000～4000 倍</p> <p>2500～5000 倍</p> <p>2000 倍</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・他害虫と同時防除できる場合は適用できる薬剤を選択する。 ・太字剤は栽培暦採用薬剤 ・スピノエースは JAS 有機栽培園に使用できる。
--	---	--	---



チャノコカクモンハマキ成虫 雌 雄



チャハマキ成虫 雌 雄



チャハマキ 被害状況



ハマキ激発生茶園



チャノコカクモンハマキ 卵塊（葉裏）



ふ化直前のチャハマキ 卵塊（眼点期）



ハマキ天敵（顆粒病ウイルス）に感染・罹病した幼虫（乳白色、灰白色化）